

# Canon EF<sup>S</sup> LENS

## EF-S18-55mm f/4-5.6 IS STM



IMAGE STABILIZER

JPN

使用説明書

# キヤノン製品のお買い上げ誠にありがとうございます。

キヤノンEF-S18-55mm F4-5.6 IS STMはEF-Sレンズ対応EOSカメラ\*用の標準ズームレンズです。

\* 他のEOSカメラには装着できません。詳しくはカメラの使用説明書、製品カタログ、キヤノンのホームページなどで確認してください。

- ISはImage Stabilizer (手ブレ補正機能) の略称です。
- STMはStepping Motor (ステッピングモーター) の略称です。

## カメラのファームウェアについて

- お使いのカメラのファームウェアは最新のバージョンにしてください。ファームウェアの最新バージョンの有無やアップデート方法については、キヤノンのホームページで確認してください。

## 本文中のマークについて



撮影に不都合が生じる恐れのある注意事項などが書いてあります。



基本操作に加えて知っておいていただきたい事項が書いてあります。

## 安全上のご注意

安全に使っていただくための注意事項です。必ずお読みください。お使いになる方と他の人々への危害や損害の発生を防ぐためにお守りください。

### **警告** 死亡や重傷を負う恐れがある内容です。

- **レンズ、またはレンズを付けた一眼レフカメラで、太陽や強い光源を直接見ないようにしてください。**視力障害の原因となります。特に、レンズ単体で直接太陽をのぞかないでください。失明の原因となります。
- **レンズキャップを外したまま、レンズまたはレンズを付けたカメラを日光の下に放置しないでください。**太陽の光が焦点を結び、火災の原因となることがあります。

### **注意** 傷を負う可能性がある内容です。

- **製品を高温や低温となる場所に放置しないでください。**製品自体が高温や低温になり、触れるとやけどやけがの原因となります。

### **注意** 物的損害を負う可能性がある内容です。

- **直射日光下の車の中など、高温になるところにレンズを放置しないでください。**故障の原因となることがあります。

## 一般的なご注意

### 取り扱い上のご注意

- レンズを寒いところから暖かいところに移すと、レンズの外部や内部に水滴が付着（結露）することがあります。そのようなときは、事前にレンズをビニール袋に入れて、周囲の温度になじませてから、取り出してください。また、暖かいところから寒いところに移すときも、同様にしてください。
- カメラの使用説明書の取り扱いに関する記載もご覧ください。

## 撮影上のご注意

このレンズはステッピングモーターを用いており、電源を入れたときやズームしたときもフォーカスレンズを動かします。

### 1. フォーカスレンズの初期リセット動作について

このレンズはカメラの電源を入れたとき、フォーカスレンズを動かして初期リセットを行います。下記のカメラ\*に装着した場合は、オートパワーオフから復帰したときも同様に、初期リセットを行います。

- 初期リセット中はピント変化が生じます。

### 2. レンズの休止状態について

カメラの電源が入っているとき、レンズ操作をしない状態が続くと、レンズは節電のため休止状態になります。また、カメラがオートパワーオフのとき、レンズは常に休止状態になっています。

このレンズは休止状態ではフォーカスレンズを動かしません。

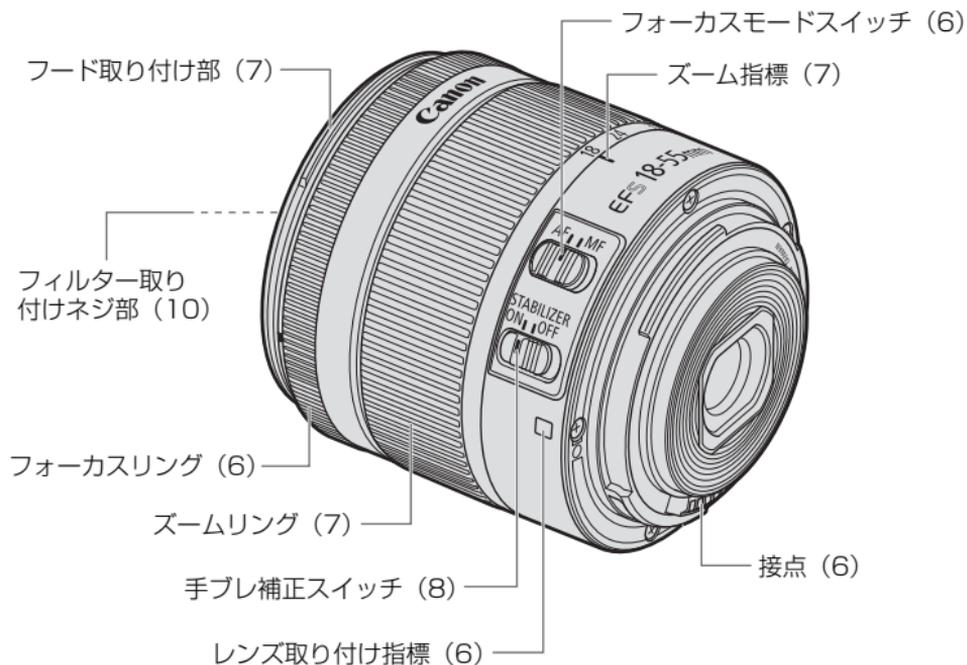
- 休止状態では、フォーカスリングを回してもピント合わせはできません。
- 休止状態では、ズームリングを回すとピント変化が生じます。

レンズの休止状態からの復帰には、シャッターボタンを半押ししてください。

\*：以下のカメラにおいて

EOS 7D Mark II, EOS 7D, EOS 70D, EOS 60D, EOS 60Da, EOS 50D, EOS 40D, EOS 30D, EOS 20D, EOS 20Da, EOS Kiss X5, EOS Kiss X4, EOS Kiss X3, EOS Kiss X2, EOS Kiss X70, EOS Kiss X50, EOS Kiss F, EOS Kiss デジタルX, EOS Kiss デジタルN, EOS Kiss デジタル

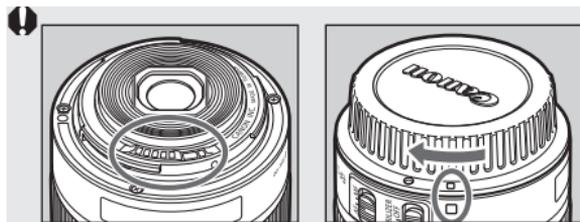
## 各部の名称



● (\*\* ) の \*\* 部は参照ページを示しています。

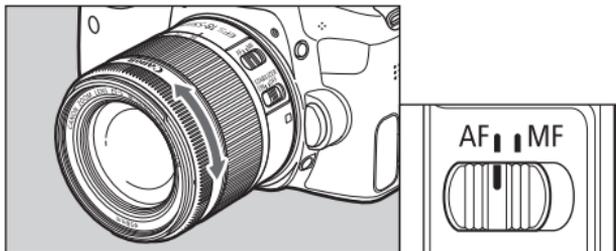
## 1 レンズの着脱

カメラにレンズを着脱する方法は、カメラの使用説明書をご覧ください。



- レンズを外したときは、接点やレンズ面を傷付けないように接点を上にして置いてください。
- 接点に傷、汚れ、指紋などが付くと接触不良や腐食の原因になり、動作不良を起こすことがあります。汚れなどが付いた場合は、柔らかい布で接点を清掃してください。
- レンズを外したときは、レンズキャップとダストキャップを付けてください。ダストキャップの取り付けは、図のようにレンズ取り付け指標とダストキャップの□の指標を合わせて時計方向に回します。取り外しは、逆の手順で行います。

## 2 フォーカスモードの設定

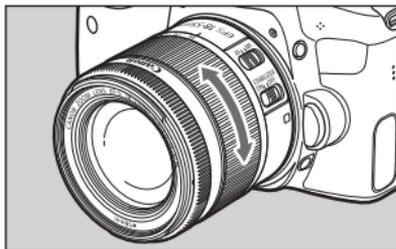


オートフォーカス(AF)で撮影するときは、フォーカスモードスイッチをAFにします。マニュアルフォーカス(MF)で撮影するときは、フォーカスモードスイッチをMFにし、フォーカスリングを手で回してピントを合わせます。

 カメラのAF動作が [ONE SHOT] のとき、AFのあとシャッターボタン半押し状態で、マニュアルフォーカスができません。(フルタイムマニュアルフォーカス)  
カメラの設定変更が必要になる場合があります。

- フォーカスリングを急回転させた場合、ピント合わせが遅れることがあります。
- 電源が切れた状態では、フォーカスリングを回してもピント合わせはできません。

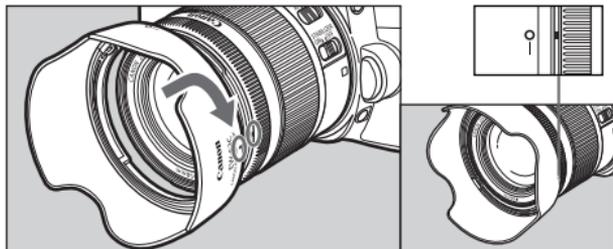
### 3 ズーミング



ズームリングを手で回してズームリングします。

- ピント合わせはズームしたあとで行ってください。ピントを合わせてからズームすると、ピント誤差が生じることがあります。
- ズームリングを急回転させた場合、一時的にピントがボケることがあります。
- 電源が切れた状態では、ズームリングを回すとピント変化が生じます。
- 静止画の露光中にズームリングすると、ピントズレが生じ輝点などの軌跡がボケます。

### 4 フード (別売)



レンズフードEW-63Cは、有害光線をカットするとともに、雨・雪・ほこりなどからレンズ前面を保護します。

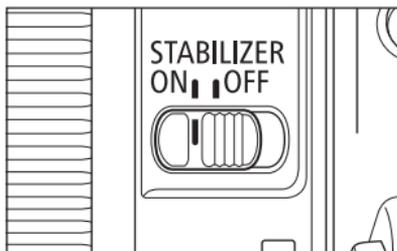
フードの赤い取り付け位置マークとレンズ先端にある赤指標を合わせ、レンズの赤指標とフードの停止位置マークが合うまで、フードを矢印の方向に回して確実に取り付けてください。収納時にはフードをレンズに逆向きにかぶせることができます。

- フードが正しく取り付けられていないと、撮影画面にケラレが生じることがあります。
- フードの取り付けや取り外しをするときは、フードの根元付近を持って回してください。フードの先端付近を持つと変形して回らなくなることがあります。

## 5 手ブレ補正機能

手ブレ補正機能はフォーカスモードがAF/MFどちらの場合でも使用できます。

また撮影状況（静止した被写体の撮影、流し撮りなど）に応じて最適な手ブレ補正を行います。



### 1 手ブレ補正スイッチをONにします。

- 手ブレ補正機能を使用しないときはOFFにします。

### 2 シャッターボタンを半押しすると、手ブレ補正機能が働きます。

- ファインダー像が安定したことを確認し、シャッターボタンを全押しして撮影します。

- 被写体が動いてしまう「被写体ブレ」は補正できません。
- 大きく揺れ動く乗り物から撮影するときは、手ブレ補正効果が十分に得られないことがあります。
- 手ブレ補正機能を〈ON〉にすると、〈OFF〉の時にくらべて電池が消耗し、撮影可能枚数や動画撮影時間が少なくなります。

- 静止した被写体の撮影では、すべての方向の手ブレを補正します。
- 水平方向の流し撮りのときは上下方向の手ブレ、垂直方向の流し撮りのときは左右方向の手ブレを補正します。
- 三脚を使用した場合も支障なく撮影できますが、電池の消耗を防ぐため手ブレ補正スイッチをOFFにすることをおすすめします。
- 一脚を使用した場合も、手持ち撮影と同等の手ブレ補正効果がありますが、撮影条件によっては、手ブレ補正効果が低下する場合があります。
- 手ブレ補正機能はエクステンションチューブ EF12 II、EF25 II を使用しても作動します。
- カメラのカスタム機能で、AF作動に設定を変更したボタンを操作しても、手ブレ補正機能が作動します。

## 手ブレ補正機能

このレンズの手ブレ補正は、次のような条件の手持ち撮影で効果を発揮します。



- 夕景や室内など、薄暗い場所
- 美術館や舞台など、ストロボ撮影が禁止されている場所
- 足場が不安定な状況
- その他、速いシャッター速度が使用できない状況

- 移動する被写体を流し撮りする場合

## 6 フィルター（別売）

フィルターは、レンズ先端のフィルター取り付けネジ部に取り付けてください。

- フィルターは1枚のみ使用できます。
- 偏光フィルターはキャノン円偏光フィルター PL-C B（58mm）を使用してください。
- 円偏光フィルターの調整操作は、フードを外した状態で行ってください。

## 7 クローズアップレンズ（別売）

クローズアップレンズ250D/500D（58mm）を使用して拡大撮影ができます。撮影倍率は次のようになります。

- クローズアップレンズ250D：0.08 ～ 0.37倍
- クローズアップレンズ500D：0.04 ～ 0.31倍

 正確なピント合わせのため、MFをおすすめします。

## 8 エクステンションチューブ（別売）

エクステンションチューブEF12 II/EF25 IIを使用して拡大撮影ができます。撮影距離範囲と撮影倍率は次のようになります。

	撮影距離範囲(mm)	撮影倍率(倍)			
		近距離側	遠距離側	近距離側	遠距離側
EF12 II	18mm	120	128	0.82	0.66
	55mm	175	344	0.55	0.23
EF25 II	18mm	使用できません			
	55mm	160	231	0.91	0.51

 正確なピント合わせのため、MFをおすすめします。

## 主な仕様

焦点距離・明るさ	18-55mm F4-5.6
レンズ構成	10群12枚
最小絞り	F22-32
画角	対角 74° 20' ~ 27° 50'、垂直 45° 30' ~ 15° 40'、 水平 64° 30' ~ 23° 20'
最短撮影距離	0.25m
最大撮影倍率	0.25倍 (55mm時)
画界	約148×228 ~ 59×89 (0.25m時)
フィルター径	58mm
最大径×長さ	66.5×61.8mm
質量	約215g
フード	EW-63C (別売)
レンズキャップ	E-58 II
ケース	LP1014 (別売)

- 35mmフォーマット換算での焦点距離イメージは29-88mmとなります。
- レンズの長さはマウント面からレンズ先端までの寸法です。  
付属のレンズキャップおよびダストキャップをつけたときの長さは寸法表示+24.2mmとなります。
- 大きさ・質量表示は本体のみの値です。
- エクステンダーは使用できません。
- 絞り値は、カメラ側で設定します。ズーミングによる絞り値の変化はカメラが自動的に補正します。
- 記載データはすべて当社基準によります。
- 製品の仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。

## 修理対応について

1. 保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお、運賃諸掛かりはお客様にてご負担願います。
2. 本製品の修理対応期間は、製品製造打切り後7年間です。なお、弊社の判断により修理対応として同一機種または同程度の仕様製品への本体交換を実施させていただく場合があります。同程度の機種との交換の場合、ご使用の消耗品や付属品をご使用いただけないことがあります。
3. 修理品をご送付の場合は、撮影された画像を添付するなど、修理箇所を明確にご指示のうえ、十分な梱包でお送りください。

キヤノンEFレンズホームページ

***canon.jp/ef***

キヤノンお客様相談センター

**050-555-90002** (直通)

受付時間〈平日/土/日/祝〉9:00～18:00

(1/1～3は休ませていただきます)

- ※ 海外からご利用の方、または050からはじまるIP電話番号をご利用いただけない方は043-211-9556をご利用ください。
- ※ 受付時間は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

**Canon**